

令和元年度 第1回当事者団体・家族会連絡会 議事録

日時：令和元年7月3日（水） 14:00～16:00

場所：かがわ総合リハビリテーションセンター2F 第一研修

参加者（敬称略）：香川県障がい福祉課、香川県障害福祉相談所、高松市障がい福祉課、香川県難聴児（者）親の会、香川県自閉症協会、香川県手をつなぐ育成会、香川県肢体不自由児者父母の会、高松市身体障害者協会、むつみ会、ウィンドヒル、ライブサポートセンター、支援センタークリマ、支援センターこだま、高松市障がい者基幹相談支援センター

○第1部：講演（各4団体の立ち上がりの経緯や過去の活動、歴史について）

14:00～15:20

- ・香川県難聴児（者）親の会
- ・香川県精神障害者家族連合会
- ・香川県自閉症協会
- ・高松市身体障害者協会

○第2部：グループワーク 15:30～16:00

→意見など

- ・課題として親の会に若い人が入らない。入会のメリットを問われる。
- ・イベント開催場所を探していくのが課題になっている。
- ・ピアサポーターなどの当事者の会は大きくなってきている。その会に参加できない方も居るが同じ悩みを分かち合うことが大事。お互い元気になれる。
- ・香川県内の家族会も幾つか無くなった。
- ・最初は、自分以外の子を見てショックを受けたが会の居心地が良かった。年齢が上の親御さんが居るので、将来像がイメージしやすかった。その反面、将来の事を考えるといつまで・・・という思いも有る。
- ・昔は、どこに行っても具体的な助言は無く、親の会から情報を得ていた。
- ・技術の発展に助けて貰っているが、すべてが○とは限らない。
- ・昨今、技術の恩恵を受けているが、携帯やタブレットに頼りすぎではダメで、支援と環境を整えて制限をかける必要もある。